

【部会・分科会活動報告】 2016年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 各部会の活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> • MALDI-TOF/MS 分科会：3月16日に分科会メンバーと(独)製品評価技術基盤機構(NITE)バイオテクノロジー部門(NBRC)川崎先生を訪問し、意見交換および見学会を行った。ディスカッションの結果、ILSI 食品微生物研究部会への協力は可であり、参加メンバーからは連携を進めたいとの声が多く上がった。次回の部会にて決議し進める。 • チルド食品勉強会：メンバー間での論文調査を実施。次回5月18日に読み合わせ会を実施予定。 • 非加熱殺菌勉強会：4月6日農研機構 食品研究部門 山本先生を訪問し、高圧殺菌や非加熱殺菌の現状についてディカッションした。次回、勉強会での基調講演を依頼。 <p>2. 次回、部会全体会議 5月24日13:00-を予定、於 花王(株)</p> <p>1) 各分科会の活動報告(MALDI-TOF/MS分科会、芽胞菌分科会、チルド食品勉強会、非加熱殺菌勉強会)</p> <p>2) NITEとの連携について決議</p> <p>3. 次回、勉強会：ILSIメンバーであれば誰でも参加可 5月24日14:00-を予定、於 花王(株)</p> <p>勉強会テーマ：高圧殺菌、過酢酸等の非加熱殺菌技術の現状</p> <p>1) 過酢酸メーカー(エコラボ、小津産業)よりプレゼン</p> <p>2) 農研機構 食品研究部門 山本先生からの基調講演 テーマ「(仮題)高圧殺菌等の非加熱殺菌の現状と展望」</p>
	食品リスク研究部会	<p>安全性試験WG 準備 日程：5/19(木)14-17時 於 味の素(株) 議題：食品の安全性評価における代替法</p>
	香料研究部会	
バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー 研 究 会	植物研究部会	バイオテクノロジー研究会としての開催で下記参照。当部会としての会合と重複
	環境リスク評価分科会	ERAプロジェクト調査報告第26号(MARCH2016)4月発刊。 ERAプロジェクト調査報告第27号(MAY2016)5月発刊予定
	アレルギー性タンパク質の分析方法分科会	特になし
	組換え体検知法分科会	特になし
	バイオテクノロジー研究会全体	<p>部会開催(4月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> -ERA調査報告書第27号勉強会 -ILSI CERA ワークショップ開催について <ul style="list-style-type: none"> ➢ プログラム案を承認 ➢ 日時：5月19日、20日、場所：ベルサール日本橋 ➢ 目的：Assessment Endpointsを明確にし、そのために必要な評価項目を科学的に精査し今後の生物多様性影響評価の在り方を探る。講演者は全て決定。 ➢ 1日目はオープンなワークショップ、2日目は有識者とのクローズドなワークショップ。 -GM食品添加物の問題点と今後について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 微生物分科会委員よりGM食品添加物における2つの問題点についての報告があり、そのILSI Japanとしてとるべき科学的アプローチに関する議論がなされた。

栄養健康研究会	栄養研究部会	部会全体会議（4月27日 15時-17時、出席者10名） 1) 部会員異動：退会1名、新規加入1名 2) 総会報告：部会活動関連議案、質疑について 3) MetSと認知機能障害WG勉強会案について：血流量と認知機能をテーマとする勉強会案開催で一致 4) 時間栄養学の最近の動向の概略について：次回部会で詳細報告 5) 部会の開催について：隔月開催
	GRプロジェクト	GR法プロトコール改善のための検討
	茶類研究部会・茶情報分科会	3月18日、第39回茶情報分科会を開催。 茶類の有効性・安全性情報の発信に関連して、部会内特別プロジェクトの成果発信の手続きについて確認を行った。 現行テーマである茶成分データベース拡張の収束に向けての手順の確認および新たに取り組むテーマ案の内容について議論を行った。
食品機能性研究会		
寄付講座「機能性食品ゲノミクス」		第III期寄付講座（2013年12月開始、5年間）研究進行中。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	◇ テイクテン (TAKE10!®) 2/29-3/2 津和野町シルバー人材センター主催「介護予防リーダー養成講習」（講師：木村美佳、島根県津和野町） 3/1 すみだテイクテン第11期フォローアップ教室（墨田区1会場） 3/3 墨田区特定高齢者事業「口腔機能向上プログラム」講義「食べて生き生き術」（講師：木村美佳、墨田区役所） 3/7-9 「テイクテンインストラクター養成講習」（社会福祉法人日の出福祉会委託）（講師：木村美佳、兵庫県加古郡） 3/14-16 津和野町シルバー人材センター主催「テイクテン介護予防リーダー養成講習」（講師：木村美佳、島根県津和野町） 3/28-31 岩国市社会福祉協議会主催「テイクテン介護予防リーダー養成講座」（講師：木村美佳、山口県岩国市） 3/9, 28 「すみだテイクテン自主グループサポート」（墨田2会場） 4/28 「すみだテイクテン自主グループサポート」（墨田1会場）
	Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	3月 SWAN3実施に関わる契約を締結（ハナム省・ニンビン省、ベトナム） 3-4月 地域ヘルスワーカーによる料理教室、紙芝居式教材を用いた栄養・食品衛生教育、栄養不良児の母親を対象とした栄養カウンセリング及び拡声器による情報提供（ターイグエン省・バクザン省、ベトナム）
	Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	特になし
	CHP全体	3/7-9 今後のCHP活動のグローバル化に向けての検討会を開催
国際協力委員会		第2回国際協力委員会 日時・場所：2016年3月10日（木）15:00 - 16:20 ILSI Japan 会議室 出席者：計16名 議事： 1) 農水省プロジェクトについて： a) H27年度調査報告書 ・ 3月14日（月）農水省に提出 ・ 作成したデータベースは、3/14にウェブ上で公開

	<p>(http://www.shokuhin-kikaku.info/)。</p> <p>b) H28年度以降の見通し：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの形のままでの継続はない見込。 ・データの処理・更新など、H28年度以降の取扱いについては要協議（所有権は農水省）。 <p>2) アジア諸国の栄養表示、健康強調表示等に関するデータの更新について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養表示、健康強調表示データの更新：2013年のデータを基に2016年版にアップデートを各アジア支部に依頼。 ・3/14以降に各支部に質問票を発送し、5月を目処に回答を集める。 ・8月末のBeSeTo会議までに取りまとめて形を作る→当委員会メンバーの共同作業。 ・論文形式にまとめ雑誌に掲載できたらよい。 ・日本よりコーデックスとの対比を中心にまとめたらよい、health claim の定義が国ごとに異なるのでその整理、分析に大変興味がある、等の意見が出た。 <p>3) 第8回BeSeTo会議：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/30, 31 北京で開催。セミナーの課題として、「食品の包装」が挙げている。 <p>4) 次回会議は5、6月頃を予定。</p>
情報委員会	<p>1. 委員会開催2回（3月、4月）</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常業務としての更新（随時） <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24巻3号（通巻92号）：翻訳、監修、編集（5/10 発刊予定） ・24巻4号（通巻93号）：翻訳、監修（8/10 発刊予定）
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌126号、原稿査読・編集

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第3回理事会が平成28年4月13日（水）15時より開催された。</p> <p>1. 理事長の所信表明</p> <p>新体制になって初の理事会であり、理事長から以下のとおり所信表明があった。</p> <p>『イルシーは転換期にあると感じている。本部との関係、WHOとの関係も、過渡期にありがちな問題のひとつととらえることができる。本日の議題はいずれもそれらの課題と関係している。例えば、本部のOne ILSI戦略であるが、我々の研究部会のテーマをOne ILSIの視点で見直すことが必要だと考える。これから進んでいくにあたって、協調が大事であるが、それは発展のためのものである。』</p> <p>2. 報告／討議事項</p> <p>下記事項を資料に基づき報告し討議した。</p> <p>(1) ILSI 本部関連</p> <p>宇津事務局長よりWHOとILSIとの関係の経緯及び当面の対応について報告した。</p> <p>次回の電話会議に当たってILSI Japanの対応をこの会で決めることはしないが、今後ILSI SEARと協調する方向で努力することとなった。</p> <p>(2) 食品規格基準等調査事業（農水省）の今後</p> <p>浜野特別顧問より2016年3月29日農林水産省食料産業局訪問時の内容につき下記の報告を行った。</p>
-----	--

	<p>出席者：櫻庭食料産業局長、栗栖輸出促進課長補佐 横田食品製造課食品企業行動室長他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品規格基準等調査事業の継続の必要性を説明した。 ・櫻庭局長から、「産業界への広報をしっかりとやるように」「法は時とともに変わる、最新情報に更新することが重要」「データベース情報の適切な発信の仕方、企業の関連部署（品質管理、海外戦略）や ILSI の支部の連携のあるべき姿を描いてもらえれば、H29 年度から調査を再開できる」との意見・指示をいただいた。 ・櫻庭局長から輸出促進課と食品製造課で話し合うように指示された。 ・29 年度からの再開のために、今年度中に浜野氏を中心に検討を進めることとなった。 <p>(3) 東大寄付講座の今後</p> <p>宇津事務局長より、2016 年 3 月 23 日、東京大学農学生命科学研究科・農学部フードサイエンス棟 3F、阿部教授室で行われた東大寄付講座打ち合わせについて報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿部教授によれば、五神総長は、産官学連携の強化を推進しており、ILSI 寄付講座（1 社でない 3 期継続）を高く評価しており、新たな形の寄付講座の可能性があると思われる。 ・4 期目を続けながら、次の新しい形を模索する。大学に自由度がある（大学がテーマを設定できる）ことに意味がある。 ・3 期目の公开发表は 9 月 14 日一条ホールで開催することに決定。 ・ILSI Travel Award に岡田先生を推薦する。 <p>(4) ILSI Japan の活動、特に部会活動の活性化に向けて宇津事務局長より食品微生物・バイオテクノロジー・食品リスク・栄養の各研究部会長ヒアリングの結果を報告した。状況が厳しい部会については、てこ入れの必要性が指摘された。今後、引続き他の研究部会長のヒアリングを行っていく。</p> <p>(5) CHP グローバル化検討進捗</p> <p>戸上理事より 2015 年 ILSI Annual Meeting, Board of Trustees で提案した Global CHP の進捗について報告した。この中で、アフリカやラテンアメリカに活動を展開する可能性、とくにアフリカでの鉄強化米プロジェクトの進展について詳細な説明が行われた。理事からは「これまで ILSI 本部が行ってきた TAKE10!®（小学生向け）の成果を含めて ILSI Japan が引き継いで、日本における高齢者向けの TAKE10!®と共に発展させるべきである」という提案があった。</p> <p>(6) “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について</p> <p>桑田副理事長より “One ILSI” Sustainable Agriculture & Nutrition Security について、食品ロスやヴァーチャル・ウォーター、TPP との関連など、どのような切り口があり得るかという点も含めて報告があった。今後、理事会で研究部会の立上げを含め討議していくことにした。</p>
事務局	